

高砂町支え合いづくり

ニュース 3号

令和元年 10月

高砂町介護予防・生活支援体制整備協議会

会長 益田 洋二

事務局：高砂市地域包括支援センター

生活支援コーディネーター 岡田

電話 079-443-3723

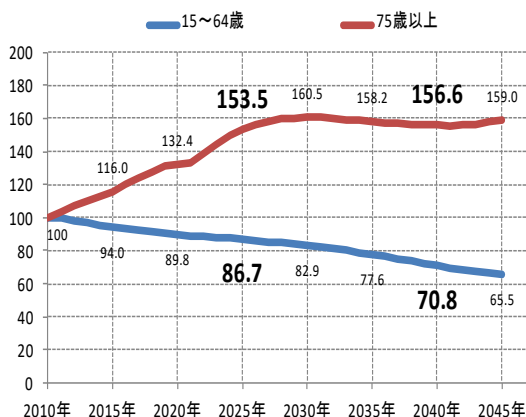
9月26日

高砂町地域づくり研修会

開催しました

9月26日、高砂地区コミュニティーセンターで安心して暮らしていける地域づくりを目指して研修会を開催しました。テーマは“協議会って何？ 支え合いって何すんの？”でした。参加者は、福祉委員、自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、婦人会など町内の福祉関係者28名の方に参加いただきました。

研修会では、これからの働き手の減少と高齢者の増加を踏まえ、元気な高齢者が社会参加する必要があること。地域で複合的課題を抱える人が増加しており、地域の支えが必要になってきていることから、地域に支え合いを



支え合いをつくる3つの「お互いさま」

- 1 私のできることが 私の元気の源に だからお互いさま**
自分の住んでいる地域のなかで、「誰かが頼ってくれている」「誰かの暮らしに寄り添っている」と実感できることは、充実感や生きがいを得ることにつながります。誰かのための支援は自分にも前向きな効果となりかえってきます。
- 2 私のおせっかいが「ありがとう」にかわる だからお互いさま**
これまであまり良いイメージとして使われなかった「おせっかい」や「安請け合い」はこれからの支え合い社会のなかではとても大切なキーワード。配慮ある「おせっかい」は「ありがとう」を生み「お互いさま」の意識が広がります。
- 3 「将来きっと自分もお世話になる」 だからお互いさま**
地域で起こる暮らしの課題は「いつか自分が直面する困りごと」かもしれません。年齢を重ねても自分の望んだ暮らしが送れる地域であるように、他人ごとではなく、自分ごととして今困っている人を支えるのも「お互いさま」です。

「3つのお互いさま」は、豊橋市発行の「支え合い活動ガイドブック」を参考にさせていただきました。

作り出していくために高砂町介護予防・生活支援体制整備協議会が発足したことや支え合いを生み出す考え方、全国の支え合い活動の事例紹介の後、参加者で質疑応答がありました。（要約裏面）

支え合いで、あれば良いこと

7月の調査で聞いた要支援者等の「あれば良いこと」では、右の意見が寄せられました。いずれも身体機能の低下した方には大事なことです。協議会では支え合いに向けて仕組みづくりを話し合います。

- ・網戸をはずしたりつけたりしてほしい
- ・草引きしてほしい。電球の取り換え。
- ・声かけ、見守り
- ・ごみステーションまでのゴミ捨て
- ・粗大ゴミのゴミ捨て
- ・花の水やり

研修会での質疑応答紹介

(質疑応答の内容については要約のうえ補足しています。)

Q 高砂町介護予防・生活支援体制整備協議会発足の経緯を知りたい？

A 社協の地域福祉推進委員会で各地区の福祉推進委員長を窓口に各地域団体等に働きかけ、地区単位で結成しています。高砂地区は、福祉推進委員長と相談して各地域団体に働きかけ、昨年の6月に発足しました。(市内4地区に結成)



Q コミセン周辺の調査で通いの場の利用希望があるのであれば集まってもらっては？

A 市と相談して調査対象者に呼びかけたいと思います。

Q 福祉委員、自治会や民生委員・児童委員などの研修会でなく一般の方に呼びかけては？

A まず、協議会のこと支え合いの必要性について町内の福祉関係者に理解をしていただく中で、関係者以外にも知っていただくことが必要と考え研修会を企画しました。

紙面の都合上、一部のみの紹介です。



Q 高砂町介護予防・生活支援体制整備協議会参加団体は？

A 町内の福祉推進委員会、連合自治会、民生委員・児童委員会、老人クラブ、婦人会です。

Q いきいきサロンふれあいサロンと通いの場の違いは？

A いきいきサロンふれあいサロンは小地域福祉部会が地域の見守りや交流を目的に運営しています。それぞれの地域事情の中で自主的に運営されています。

通いの場は、市の補助金を活用した要支援の方を中心とした交流や体操などを行います。補助金を活用して運営されることから開催日や補助金の使途など制約があります。

Q 地域に通いの場を作るとなると何十人もの担い手が必要になるが確保できるのか？

A 各団体においても新たな担い手不足に苦慮されていることは聞いています。新たな担い手には通いの場のお世話だけ、支え合い活動には支え合いのマッチングだけといった、活動に特化した担い手として活躍して頂ければと考えています。